

技術情報
林業情報



ネズミサシの付加価値の高い
新たな用途を探索する

技術支援部 主任研究員 山場 淳史

はじめに
(ネズミサシのご紹介)

ネズ (ネズミサシ、モロギ・*Juniperus rigida*) はヒノキ科ジャクシン属の高さ10数mになる常緑の針葉樹です (写真1)。葉の先端がゴム手袋で触っても痛いほど鋭く尖っており、昔はこの枝葉をネズミの通り道に置いていたことに由来する「ネズミサシ」という呼称も広く認知されているようです。私が紹介する際は、インパクトがありストーリーを感じることの呼称が好きで、文字数は増えますが、あえて「ネズミサシ」と表現しています。

ネズミサシは東北地方から南の本州、四国、さらには九州まで分布し、朝鮮半島や中国でも見られるようですが、もともとマツタケが収穫できるような乾燥した明るいアカマツ林によく見られる陽樹なので、広島県、特にマツタケの主要な産地であった賀茂台地や世羅台地



写真1 ネズの樹形

周辺は日本でも有数の生育地だと思われれます。こうした地域では、高木のアカマツが枯れた後にネズミサシが真っ先に成長し、一時的に優占しているような山を所々で見ることがあります。しかしながら、林業分野でのネズミサシの研究例はヒノキへの樹脂類枯病の伝染に関するものがほとんどで、基本的な繁殖や生長特性などは、ほとんど分かっています。

材の特徴とこれまでの用途

もともと前述のような立地環境に生育することが多かったため成長が遅く、一般的にネズミサシ材は緻密で比重が大きいのに加え、樹脂

も多く耐水性が高いという特徴があります。

典型的な用途は稲の「はで干し」の場面です。刈り取った稲を束にし、木と竹竿でつくった「はで」にかけて天日で乾燥する風景は、いまではなかなか見ることができなくなりましたが、この「はで」の支柱には古くからネズミサシの細くて硬く真つ直ぐな材が使われてきました。農家さんの納屋の軒先には年季の入ったネズミサシ材がたくさん積まれているのを見ることが出来ます。ほかには和室の床柱にも意匠として使われます。

球果の特徴と
これまでの用途

ネズミサシは雌雄異株で、雌木には肉質液果状の球果が実ります。最初は緑色ですが、翌年か翌々年の秋に熟し黒紫色に変化します。乾燥させた球果は「杜松子 (としようし)」という尿道炎や神経痛に効果がある生薬とされています。また種子より油を搾り燈用とするという記述がある文献もあります。

新たな付加価値の高い
用途の普及にむけた取組

当センターでは、平成28年度に賀

おわりに

これまで紹介した取り組み事例は、主にネズミサシに限ったものですが、身近な里山林に普通に生育する樹種の中には、今はほとんど未利用でも実は現代的な付加価値が高いものが潜んでいるのではないかと考えられます。

当センターでは、そうした樹種の新たな用途を探索し、その収集や加工の技術的検討に総合的に取り組みながら、併せてユーザーとして想定される主体や製品のイメージを関係者と共有できるような場面を創出し、成果を広報していきたいと考えております。

このような取り組みが森林所有者や地域組織に伝わり、身近な里山林の経済的価値への関心が高まることで、将来的には資源の保全・管理への意識も向上することが期待されます。

読者の皆さまからも、新しい用途に繋がるようなご提案やご意見をお願ひできれば幸いです。
(問い合わせ) 技術支援部直通 0824-6310897

そのほかにも、(社)ひろしま森のおもちゃ協会が開発・販売されている「ひろしま積み木」(写真3)でもネズミサシのピースが入ったシリーズがあります。



写真2 スプーンづくり

また、平成30年度の県立広島大学生命環境学部フィールド科学実習でも、一場木工所内でネズミサシスプーンづくりの体験(写真2)を通じて、里山資源の活用について考察を深めました。

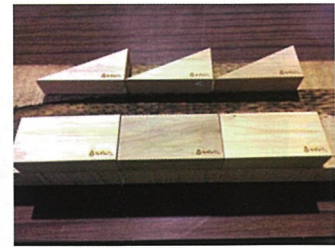


写真3 ネズミサシ積み木

②クラフトジンの香料(球果) セイヨウネズの球果は蒸留酒ジンの主要な原料(香料)としても有



写真4 SAKURAO GIN

名です。当センターでは総合技術研究所の利点となる他センターとの情報連携を活用し、身近に自生するネズミサシの球果でも代用可能であることを確認し、県内でジンを製造予定のメーカーへクロモジやヒノキなどとともに使用を提案しました。また材料収集にあたって、産地や業者を紹介しました。

このクラフトジンの品質は国際的にも非常に評価が高く、世界的な品評会インターナショナル・ワイン・アンド・スピリッツ・コンペティションにて最高クラスの受賞をしたことが内外で話題となっており、産地形成の取り組みも含め注目されています。

地域の森を守る取り組みに貢献します!

株式会社 河本組
山県郡安芸太田町字遊谷 665-1
TEL 0826-28-2317
FAX 0826-28-2708
http://www.koumotogumi.co.jp

「緑の循環」認証会議 (SGEC) 認定事業体

ウッドソイルフェンスシリーズ
「新製品」ウッドソイルフェンスG-UP
軽量&コンパクト 折畳式ワンタッチ設置パネル

茂地方森林組合の協力で、東広島市内でネズミサシを伐採し、材を製材・乾燥し、球果を枝から効率的に選別する試験を行いました。その試験内容についてはまた改めて紹介する機会を作りますが、本報ではその結果得られた材と球果のサンプルを提供し、結果的に商品などに活用された事例をご紹介します。

①カトラリー等の小物(材)
三次市の(有)場木工所では、天然乾燥ヒノキ材を中心とした製品を積極的に開発・展開されていますが、その普及過程でスプーンなどの小物づくりワークショップを開催しました。実はネズミサシに近縁なセイヨウネズ (*Juniperus communis*) の主産地である北欧では、その材をバタナイフやスプーンなどのカトラリーとして伝統的に用いられてきたことが知られています。

そこで一場木工所により従来のヒノキに加えてネズミサシの材を用いたバタナイフづくりのワークショップを平成29年度から市内ショップやモールやデパートなどの催事場で開催したところ、参加者からネズミサシの材の香りや表情が大変好評だったということです。

【林業技術センターホームページ】 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/33/1219628260277.html>